

## 令和4年度 第1回 上下水道事業運営審議会

### 1 開催日時

令和4年5月27日(金) 15時00分～17時00分

### 2 開催場所

柏市千代田1丁目2番32号

柏市上下水道局庁舎 4階 401・402会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

落合委員，堀田委員，佐藤委員，谷委員，石井委員，小暮委員，齊藤委員，吉澤委員，秋田委員，石田委員，白石委員，新田委員

#### (2) 事務局

成嶋上下水道事業管理者，内田理事，荒巻次長兼総務課長，伊藤経営企画課長，安達料金課長，片山給排水課長，新井水道工務課長，松崎下水道工務課長，深山施設管理課長 他

### 4 議題

- (1) 水道事業及び下水道事業について
- (2) 水道事業及び下水道事業の主要な計画と課題について
- (3) 令和4年度水道事業及び下水道事業の予算と主要事業について

### 5 報告事項

- (1) 上下水道局庁舎再整備事業の状況について

### 6 議事

#### 議題 (1) 水道事業及び下水道事業について

#### 質疑 (白石委員)，回答 (吉澤委員)

- Q. 手賀沼終末処理場で処理した後は利根川に流すと説明があったが，手賀川ではなく利根川に直接流しているのか。
- A. 処理場から約5kmの管を流れた後，処理した水を利根川に流している。  
手賀川だとあまり勾配がなく川幅が狭い。他にも利用権などの問題もあるの

で、利根川に流している。

質疑（落合委員長）、回答（吉澤委員）

Q. では、手賀沼に汚水が流れるということは無いか。

A. 利根川に流れているので、手賀沼に逆流することは無い。

質疑（齊藤委員）

Q. 資料1-1の2ページに、令和2年3月時点の計画給水人口が427,150人とあるが、現在の人数はどれくらいか。

A. 直近の数値である令和3年度末時点の給水人口は407,014人である。

質疑（石田委員）

Q. 資料1-1の5ページにある水道料金について、基本料金：口径別9段階とあるが、どのようにして決まっているのか。また、企業が対象なのか、一般消費者にも影響があるものなのか。

A. 太い水道管のほうが水を多く使い利便性が高くなるため、給水管の口径によって基本料金を定めている。13ミリ、20ミリ、25ミリ、40ミリ、50ミリ、75ミリ、100ミリ、150ミリ、200ミリの9段階で、一般家庭であれば20ミリがほとんどである。

質疑（吉澤委員）

Q. 資料1-1の4ページに、柏市が北千葉広域水道企業団から水を買う単価が基本料金53円/m<sup>3</sup> 使用料金10円/m<sup>3</sup>（各税別）とあるが、市民の方からいただく料金は各市町村で異なるのか。

A. 北千葉広域水道企業団から買う値段の単価はどの市町村も同じ金額であるが、柏市などの水道事業体が市民の方からいただく料金は、各市によって異なる。

質疑（白石委員）

Q. 資料1-2の5ページの汚水管について、設置から35年以上経つと不具合が出始めるとあるが、具体的にはどのようなものか。また、水道管の場合は、何年くらい経過したら取り替えるのか。

A. 下水道について、35年以上経つと管が壊れ、道路陥没などを引き起こすなどの不具合が起りやすくなる、という指標がある。現在、令和7年度に35年以上となる管について調査を行っており、老朽化が激しいものについては、管更生という管の長寿命化を行っている。

水道について、水道管の法定耐用年数は40年だが、実際にはそれ以上使用できるので、過去の地震や他市のデータを参考に、更新基準を柏市独自で定めている。塩化ビニル管は40年、ダクタイル鋳鉄管であれば70年と定めているので、その前に更新を考えている。

#### 質疑（秋田委員）

- Q. 資料1-2の5ページの雨水管について、近年は異常気象が多いが、大雨が降った場合、問題なく雨水を処理できるのか。
- A. 雨水は地下の雨水管を通り、大堀川などの川に流している。現在の雨水幹線の整備率は約22%であり、非常に強い雨が降った場合、場合によっては宅地に水が浸入することがある。以前から台風がくると浸水することがあったが、近年は台風以外の大雨でも宅地に水が浸入することがあるので、雨水管整備をどれだけ効率的に進めていけるかが課題と考えている。

### 議題（2）水道事業及び下水道事業の主要な計画と課題について

#### 質疑（齊藤委員）

- Q. 資料2の1ページの将来課題について、将来的な人口減少や節水等による水需要の減少予測とある。前に柏市下水道事業経営委員会に出席した際に、下水道使用料の収入は、ショッピングモールなどの大型施設が占めていると聞いた記憶があるのだが、コロナ禍で撤退する企業も多いと思うが、これは課題にはならないのか。市としてどう考えているのか聞きたい。
- A. 大型施設の収入減少は、料金改定の必要性の検討の中での大きな課題と捉えている。今後の料金収入の見通しについて、令和2年度の特に上半期はコロナの影響で大口利用者からの収入が減少し、令和3年度上半期は一部復活した。令和2年度と令和3年度の下半期を比較すると概ね横ばいとなっており、今年度は復活するのか、横ばいなのか、大きなポイントになると思っている。一般家庭分よりも、将来を見通す中で大口利用者分の動向がポイントとなるので、今年度は特に注視していきたい。

#### 質疑（谷委員）

- Q. 水道料金について、平成11年7月改定から実質据え置きとなっていて、資料2の10ページに一般会計（市税）からの繰入金に頼らず、料金値上げも行わずに運営が可能とあるが、どのような理由によるものか。
- A. 料金の将来の見通しについて、水道と下水道で大きな差があるが、近隣自

治体でも似た傾向がある。正確な分析は難しいが、一般的に下水道の場合は、市で整備したあとに、市民の方に繋いでいただくをお願いをする。繋いでいただけない場合、もし浄化槽などに不具合が生じたら、近隣の方の迷惑になってしまうこともあるため、下水道の料金はギリギリの水準で設定し、下水道に繋いでいただくことを優先しているのに比べ、水道のほうが適切な料金水準で改定しやすい事業環境にあると考えている。このようなことから水道は、平成11年に適切な料金水準で改正したのだと考えている。

#### 意見（谷委員）

平成11年の料金改定の際に水道審議会委員として参加していたが、そのときの選択肢は3段階あって、上げるべきならば上げたほうが効率が良いと思ひ、1番高い段階に手を上げた。最終的には真ん中の段階に決まったが、それがずっと維持されていることに驚いた。

#### 質疑（秋田委員）

- Q. 資料2の3ページの主要計画②の下水道について、健全経営のもとで施設の機能を維持という記載をあえてしているように見えるのだが、これは不健全な経営があったということなのか。また、柏市も市民の高齢化が進んでいると思うが、高齢化はどのような影響を与えるのか。
- A. 不適切な経営があったというわけではなく、将来的に収支が厳しいことが想定されるため、財務の健全性という意味で入れたもの。高齢化の影響については、将来推計するにあたり、高齢化・人口減少という問題が国全体としてあるが、上下水道の使用量減少については、人口減少を直接的な原因と考えており、高齢化については大きな影響だとは捉えていない。今後は高齢化の影響も考えてみたい。
- Q. 資料2の10ページの収支見通しについて、約50年先まで試算とあり、平成23年の給水人口が約427,150人とのことだが、50年先の人口はどれくらいと予測しているか。
- A. 水道事業ビジョン概要版の7ページに将来見通しのグラフがあり、令和2年度に約40万人となりその後若干増えていくが、令和37年度頃には40万人を下回り、令和50年度以降は35万人近辺となる予測である。0～20万人の部分省略しているグラフなので、見た目の減少幅とは異なるが、1割くらいの人口減少があるかもしれないと予測している。

#### 質疑（落合委員長）

Q. このグラフは年齢も考慮されているのか。

A. 市の総合計画の数値が基礎となっているので、データとしてはあるはずだが、こちらの水道事業ビジョンでは考慮していない。

#### 質疑（佐藤委員）

Q. 水道事業ビジョン概要版7ページのグラフで、給水人口と行政区域内人口に差があるが理由は何か。

A. 上水道ではなく井戸を使用する地域のかたが、将来も一部残る想定になっているため、行政区域内人口よりも給水人口が若干少なくなっている。

Q. 簡易水道はあるか。

A. ない。

Q. 今回の説明を受けて、水道と下水道のそれぞれの課題に、それぞれが別々に取り組んでいくと聞こえたのだが、せっかく組織統合したので、効率化に繋がるよう一体的に取り組める部分があればいいと思う。

A. 市民サービス面でいうと、庁舎の1階に窓口業務を集めて一本化している。また、これまでは業者などが水道と下水道で別々の庁舎に行かなければならなかったが、上下水道局庁舎だけで済むようになった。他には、広報紙をこれまでは別々で作成していたが、今年度から上下水道で1つにまとめ、6月15日に第1号の発行を予定している。内部業務では、例えば経営企画課では水道・下水道のどちらの経理業務も行っているが、これまで別々の部署だった職員がすぐ隣で仕事をしているので、疑問が生じた際は相談しながら対応することができ、職員の業務ノウハウが向上していくと考えている。

#### 意見（落合委員長）

今の質問は、将来の課題や検討事項について、組織統合によるメリットを活かしていったほうがよいという意味だと思う。

#### 質疑（堀田副委員長）

Q. 最後の水道事業運営審議会でも同じような議論があった。水道と下水道では仕事のやり方が違うようなので、外から見ると連携できそうだと思っても、実際には難しい部分がある。そうは言っても、石川県かほく市では、水道と下水道の点検業務を包括契約した事例もあるので、それぞれの違いはあると思うが、連携を進めていただければと思う。

A. 市議会でも組織統合の効果を問われ、市民サービス・広報・人材育成・危

機管理などを中心に説明してきた。今頂いた外部委託などについてのご意見も、具体的な成果を目指していく中で、今後参考にしていきたい。

### 議題 (3) 令和4年度水道事業及び下水道事業の予算と主要事業について

#### 質疑 (白石委員)

Q. 資料3の9ページに災害対応支援車両購入とあるが、これは給水車のことか。現在、何台あり、今後何台買う予定なのか。

A. 給水車のことである。現在5台あるうち、古くなった1台を買い替える予定で、給水車の台数が増えるわけではない。

#### 質疑 (佐藤委員), 回答 (吉澤委員)

Q. 資料3の14ページ下水道の主要事業の中に、流域下水道整備約3億円とある。流域下水道は県の事業だと思うが、県からこの金額を支払ってほしいと言われているのか。

A. 新たな設備を作る際にいただく建設負担金として、柏市からは3億円をいただいている。その他には、今まで整備した管や設備の更新のために、維持管理負担金をいただいている。予算としては、維持管理負担金は収益的収支、建設負担金は資本的収支となる。

#### 質疑 (秋田委員)

Q. 上下水道局庁舎の前にある掲示板について、もう少し工夫して活用できるのでは。

A. 現在は条例や規則などで決められたものを掲示しているが、今後上下水道のPRなどで活用できないか検討していきたい。

### 報告事項 (1) 上下水道局庁舎再整備事業の状況について

質疑なし

## 7 傍聴

傍聴者なし